

丹沢モミソ沢（沢のぼり）

- ◆日程 2019年6月2日（日）
- ◆メンバー L：佐藤、須田、雨面、小山田、渡辺、岡村、大山、今、大塚、松田
- ◆天候 曇り

7時半に渋沢駅に集合し、佐藤Lの車で新茅山荘駐車場に向かった。そこから少し歩き、モミソ岩（懸垂岩）に到着。そこで前泊組の6人と合流した。

まずはモミソ岩でトレーニングを開始。幸運にも我々のパーティー以外、ソロの男性しかおらず、岩を独り占めできた。数本登って、ローダウン・懸垂下降で降りる。岩の感覚とロープワークを思い出したのち、いよいよ入渓。本日のコースは8mの大棚を登った後、VRルートでモミソ岩上部に出て、懸垂下降するというものだった。

この日が沢登りデビューの私。とりあえず中央でついていく。皆濡れることを躊躇せず、沢にジャブジャブ入り進んでいく。普段は絶対に通らない（通ってはいけない）ルート。



アドベンチャーレースさながらで、いきなりカルチャーショックを受ける。小さな滝が連続して現れる。乾いた岩とは違い、コケや濡れた落ち葉でよく滑る。変な虫やヒルもいる。岩はもろく崩れやすいので注意が必要だ。チムニー状の滝も多く、皆の登り方をよく観察し真似て登る。雨面さんはブランクを全く感じさせない、美しく軽やかな登りで見とれてしまう。クライマックスの大棚は登れる気がしなかったが、最後は（恐らく）ロープで引っ張り上げられ、何とか登り切った。

そこからモミソ岩上部に出るために、地図読みで尾根道を探しながら下った。結構急な下りで、緊張はまだまだ続く。道を外すことなく岩上部に辿り着き、各自懸垂下降で降りて終了。

沢登りは「大人の水遊び」とは言うが、緊張の連続で、沢を楽しむには至らなかった。気づけば両脚や腕に無数の痣や切り傷ができていた。クライミング能力がまだまだ不十分なことの表れなのだろう。私が沢登りを楽しめるようになるには、さらなる努力が必要なのだ。帰り際には、ド派手に転倒した。家に帰るまでが沢登り。油断は禁物である。（記：松田）

久しぶりの沢と岩トレ、一抹の不安はあるものの思い切って参加しました。記録を探すと沢はセドノ沢依頼 11年ぶり、最後の岩登り北岳バットレスから 40年ぶりでしたが、須田君、岡村君お二人のビレイで懸垂岩を気持ちよく登ることができました。手足が覚えていたようです。

モミソ沢も前日購入した沢シューズと沢用ハーネスで快適でした。ただ最後の懸垂岩下降ポイントへの詰めには少々ビビりました。佐藤リーダーのルートファインディングと勇気に感謝です。機会があればまた参加したいと思います。有難うございました。（記：雨面）

CT：モミソ岩 8:25 - (岩トレ) - モミソ沢 10:50 - モミソ岩上部 15:00 - 懸垂下降で下山